

ダビデはもう一度、主に伺った。すると主は答えられた。「さあ、ケイラに下つていけ。わたしがペリシテ人をあなたの手に渡すから。」

第二サムエル記23章4節

サウル王から命が狙われているダビデは逃亡生活に入ります。そのような中で彼にケイラの住民がペリシテ人によって攻められているという知らせが届きます。おそらくダビデはその知らせを聞いた時、迷ったでしょう。自分は今サウル王から身を守る事で精一杯。部下たちからも「今はケイラを救っている余裕はない」と進言されている。しかし同胞であるケイラの住民を見捨てるわけにはいかない。ケイラを救うかどうか選択が迫られ、迷っている中でダビデがとった行動が「主に伺う」という事でした。

私たちは日々選択をしながら生きています。「今日は何の洋服を着て出かけよう」など

の些細なことから、自分の進路や仕事の選択などの自分の人生に大きく関わる事など様々です。その選択をするとき、私たちは必ず何かを「軸」として選択します。それが自分の意志なのか、人からの助言なのか、それともダビデのように神様の言葉なのか。

ダビデの選択の「軸」は神様が何を望まれているかという事でした。神様を信じているからこそダビデは神様に自分がどうすべきか伺い、神様の言葉を求めたのです。その伺いに対して答えられた「ペリシテ人をあなたの手に渡す」という言葉はダビデにとって、ペリシテ人の大男のゴリヤテを倒したことを思い出し、自分の前に神様が立って戦い、

救い出し、導いてくださることを思い出す励ましの言葉だったでしょう。その言葉に励まされ、ダビデは神様に従い進んでいきます。

しかしその結果は万事OKとはいきませんでした。むしろサウル王に居場所がばれ、危険な状況に陥ります。私たちも神様に伺い、神様の言葉を聴き、その言葉に従ったけれども自分の思っていた通りの結果にならない。むしろダビデのように目の前の状況が悪化する時があるかもしれません。しかし神様はサウル王からダビデを守ったように、私たちも守ってくださいるお方です。神様はご自身のことばを聴き、従うという選択を取った者に対して責任を取ってください、最善の道へと守り導いてくださいます。そんな神様に私たちは信頼をし、神様の言葉を聴くことを大切にしながら、神様に「軸」を置く日々を歩んでいきましょう。(林)

【主の祈り】（カトリック／聖公会共通訳）

天におられるわたしたちの父よ、御名が聖とされますように。御国が来ますように。御心が天に行なわれる通り地にも行われますように。わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。わたしたちの罪をお赦してください。わたしたちも人を赦します。わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。アーメン

【使徒信条】（日本基督教団 口語訳）

わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。わたしはそのひとり子、わたしたちの主、イエス・キリストを信じます。主は聖霊によつてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみにくだり、三日目に死人のうちからよみがえり、天にのぼられました。そして、全能の父

である神の右に座しておられます。そこからこられて、生きている者と死んでいる者をさばかれます。わたしは聖霊を信じます。きよい公同の教会、聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、永遠の命を信じます。アーメン

【礼拝賛美】「主はぶどうの木」

（※↓★↓※の順で歌う）

※主はぶどうの木 わたしは枝です

いつも離れずに

主はぶどうの木 わたしは枝です

豊かな実を結ぶ

★みことばにとどまり 愛に生きるなら

この世は知るでしょう

主の救いと いやし

【礼拝賛美】鹿のように（2回）

谷川の流れを慕う 鹿のように

主よわが魂 あなたを慕う

あなたこそわが盾 あなたこそわが力

あなたこそわが望み われは主を仰ぐ